

令和2年度 環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会 発表資料

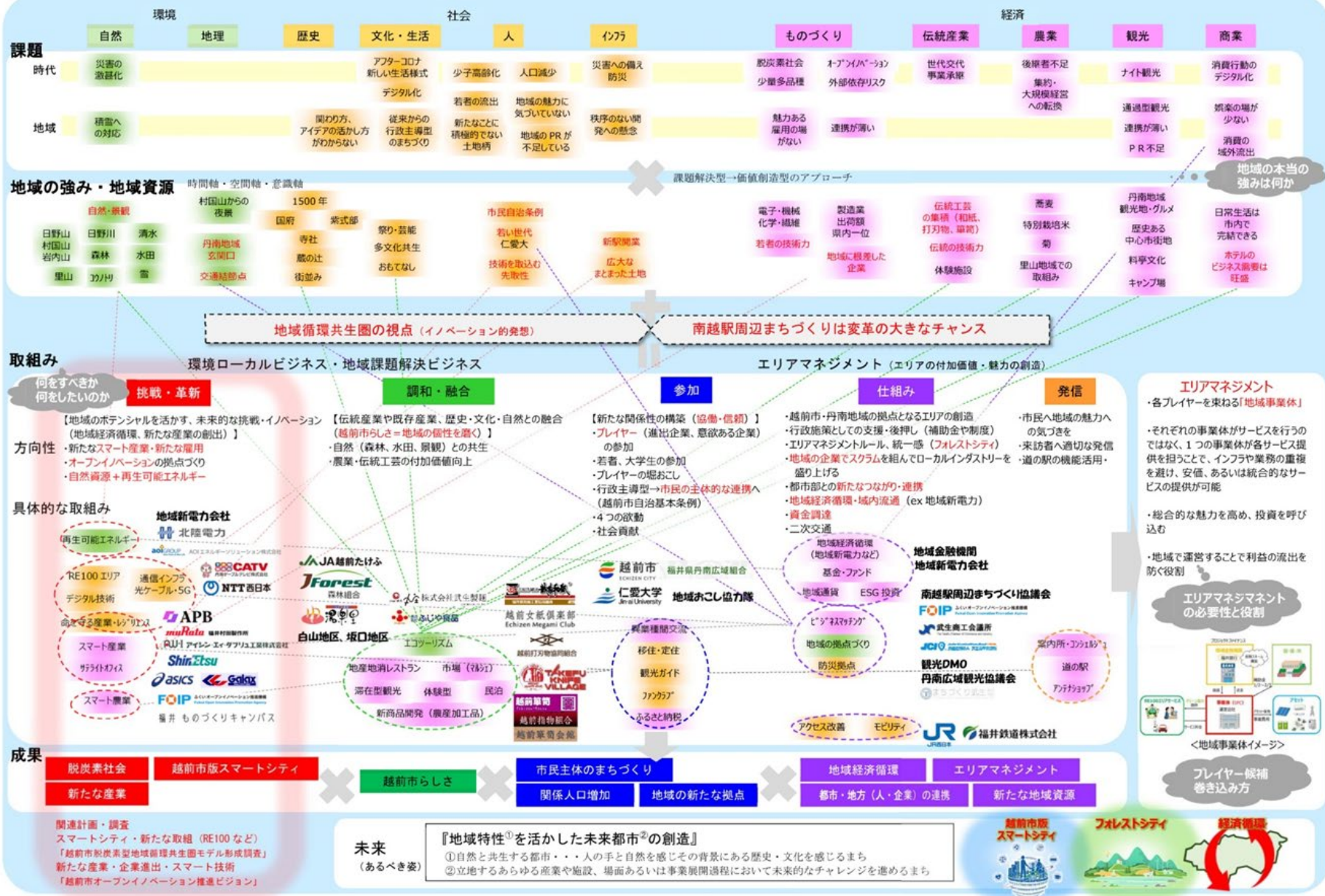
活動団体名：越前市イノベーション研究会
活動地域：福井県越前市

活動におけるテーマ・キャッチコピー
新たなイノベーションによる地域資源の
創出と地域課題の解消へ



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

越前市 地域のコンセプトシート（地域版マナダラ）～新たなまちづくりに向けた具体的な取組み～



◆今年度の到達目標・チャレンジしたいこと

- ①イノベーション、新たな産業創出を目的として都市と地方、伝統と技術が共生する仕組みづくり、新たな関係性の構築
- ②地域の課題を解決できるビジネスを実現できるような企業・団体との連携
(地域のさまざまなステークホルダーを巻きこむ)

◆当初の到達目標に対する達成状況

- ①地域の課題、地域の強み・地域資源を踏まえ、“スマートシティ”“フォレストシティ”の実現に向けた3つの「事業のタネ」ができたこと。
- ②越前市イノベーション研究会のメンバーである大学、銀行、民間組織と行政との関係性が作れたこと。
- ③企業・団体との連携の目標は域内3社、域外3社に対し、達成は域内1社、域外2社となった。

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

1	事業名	オープンイノベーションの拠点づくり（先端産業×伝統産業×スマート）		
	概要	南越駅周辺のまちづくりのテーマ『地域特性を活かした（フォレストシティ）未来都市の創造（越前市版スマートシティ）』の実現のため、地域の強みであるモノづくり産業と伝統産業を融合させ、スマート技術とかけ合わせたオープンイノベーションの実現による新たな産業の創出を図ることを目的に、各事業者間をつなぐ情報交流拠点、商品開発拠点づくりを行う。		
	課題・ボトルネック	拠点づくりにおけるヒト・モノ・カネについて、初期段階では行政等の支援が不可欠である。	力を借りたい人物・企業像	産業支援団体 / 行政 既存同業者団体・組合

2	事業名	体験型観光への誘導（観光・交流×スマート）		
	概要	地域の強みである伝統産業（越前和紙、打刃物、越前筆筥）とスマート技術をかけ合わせ、伝統産業の観光施設・情報発信・商品開発の充実を図り、地域全体の魅力向上につなげる。		
	課題・ボトルネック	伝統産業事業者それぞれが観光分野に協力を得られるか、ヒト、モノ、カネに加えて、マインドの形成。	力を借りたい人物・企業像	産業支援団体 / ボランティア（観光ガイド） 学生（観光ガイド） / 行政

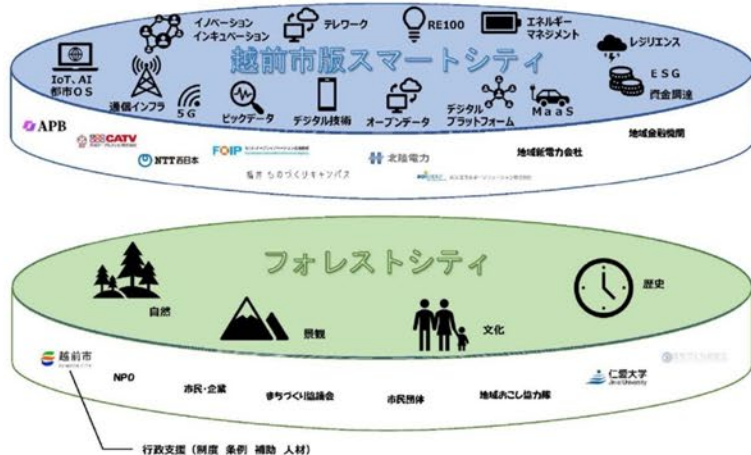
3	事業名	スマート農業・スマート農園（農業×スマート）		
	概要	南越駅周辺のフォレストシティを具現化する要素の一つである農業とスマート技術をかけ合わせ、農業の経営力強化を図るとともに、付加価値商品の生産と6次産業化により地域全体の魅力向上につなげる。		
	課題・ボトルネック	農地集約化での合意形成。 農業従事者の高齢化、スマート農業のマネジメント、オペレーション経験不足。	力を借りたい人物・企業像	地域おこし協力隊 農業分野の事業者、団体 / 行政

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

越前市スマートシティ事業（案）

『地域特性^①を活かした未来都市^②の創造』

①自然と共生する都市・・・人の手と自然を感じその情景にある歴史・文化を感じるまち
②立地するあらゆる産業や施設、場があるいは事業展開過程において未来的なチャレンジを進めるまち



取組みのテーマ 農業×スマート

挑戦・革新 調和・融合 仕組み

地域課題	地域特性・強み	将来像・成果
後継者不足 集約・大規模経営への転換	自然・景観 里山 水田 里山地域での取組み 農地集約の推進 コワノリノまち 駅を降りたらすぐ農地 特別栽培米	・経営力強化による儲かる農業づくり ・他地域からの多様な就業希望人材の流入 ・付加価値、魅力ある商品による資金流入 ・新たな商品開発による地域内調達、地域内の経済循環 ・観光分野と連携した交流人口の増加 ・南越前周辺の取組みの市域・丹南広域への波及

具体的な取組み（案）

- ・農地集約化による経営の効率化
- ・ICT、ロボット技術、5G通信を活用したスマート農業による経営力強化
- ・AI、ビックデータ等のデジタル技術を活用した情報収集（マーケットニーズ）による「越前市らしさ」の製品開発
- ・6次産業化による地域で儲かる仕組みづくり
- ・ICT、ロボット技術、5G通信を活用した AI 市民農園、AI マルシェ
- ・駅近立地を生かし、観光分野と連携した駅近体験農園＋加工体験＋地産地消レストラン
- （手ぐらで農園、遠隔で栽培、営農指導もオンライン、収穫できたら地産地消レストラン）
- ・スマート農業実証エリアとして場の提供

プレイヤー

- 営農組合・農業法人
- JA越前たけふ
- 白山地区、坂口地区などの農家
- 地域おこし協力隊
- 株式会社武生製麺
- 地域の飲食業
- 農林水産省
- Kyubota
- YANMAR

取組みのテーマ

先端産業×伝統産業×スマート

挑戦・革新 調和・融合 仕組み

地域課題	地域特性・強み	将来像・成果
脱炭素社会への対応 デジタル化への対応 オープンイノベーションによる新領域への展開	魅力ある雇用場がない 連携が薄い 世代交代事業承継 電子・機械化学・繊維 技術を取込む先取性 伝統の技術力 若者の技術力 地域に根差した企業	・新たな産業による雇用創出 ・他地域からの多様な（グローバル）人材の流入 ・付加価値、魅力ある商品・製品の差別化による資金流入、「儲かる産業」づくり ・再生可能エネルギー・RE100 による地域内エネルギー循環 ・新たな商品開発による地域内調達、地域内の経済循環 ・南越前周辺の取組みの市域・丹南広域への波及

具体的な取組み（案）

- ・オープンイノベーションにより、先端産業と伝統産業の技術融合を図り新たな産業を創出
- ・オープンイノベーション拠点を情報交流拠点、ビジネスマッチング、インキュベーション拠点としての機能をもたせエリア内に設置
- ・RE100 エリアとして、製品の高付加価値化による新たなサプライヤーとしての販路開拓
- ・オープンデータによる ESG 投資など資金調達の多様化
- ・IoT、AI、5G 通信を活用した生産性向上による個々の経営力強化
- ・AI、ビックデータ等のデジタル技術を活用した情報収集（マーケットニーズ）による「越前市らしさ」の商品開発
- ・伝統産業における高付加価値商品の開発
- ・スマート実証エリアとして場の提供

プレイヤー

- FOIP
- 武生商工会連所
- JCI
- まちづくり民生活
- 地域金融機関
- 越前市
- NTT 吉日本
- APB
- muRata
- Shinetsu
- asics
- 地域の製造業
- ベンチャー企業
- 越前女紙倶楽部
- Echizen Megami Club
- 越前打刀協同組合
- 越前草鞋組合
- 越前草鞋会館

取組みのテーマ

観光・交流×スマート

調和・融合 仕組み

地域課題	地域特性・強み	将来像・成果
通過型観光 連携が薄い PR 不足 ナイト観光	丹南地域 観光地・グルメ 森林 水田 里山 伝統産業 体験施設 清水 雪 歴史ある中心市街地 おもてなし 祭り・芸能 新駅開業 丹南地域玄関口 交通結節点	・旅行者・来街者の満足度向上 ・滞在型、周辺型観光への転換による地域経済の拡大 ・伝統産業体験施設の誘客増加 ・観光分野事業者の連携強化 ・既存観光地との差別化による誘客増加

具体的な取組み（案）

- ・AI、ビックデータ等のデジタル技術を活用した観光流動・購買行動の可視化によるニーズの情報収集、企画提案
- ・旅行者・来街者のニーズに対する適切な情報提供（デジタルサイネージ、最適提案）
- ・滞在型、周辺型観光への誘導
- ・オンデマンドモビリティシステム、MaaS による交通利便性の向上
- ・道の駅などを活用し観光拠点、ハブ機能施設を設置
- ・伝統産業のオンライン体験によるリアルな体験工房への誘導
- ・個人ニーズに合わせた伝統産品のオンライン注文システム、唯一の商品の提供
- ・デジタル技術による多言語対応
- ・デジタルチケット、デジタルパス、顔認証、定額制（～～放題）による旅行者・来街者の利便性の向上と施設経営側の業務効率化

プレイヤー

- 観光DMO
- 丹南広域観光協議会
- 武生商工会連所
- JCI
- まちづくり民生活
- 地域の飲食業
- 株式会社武生製麺
- 地域おこし協力隊
- JR
- 福井鉄道株式会社
- 越前女紙倶楽部
- Echizen Megami Club
- 越前打刀協同組合
- 越前草鞋組合
- 越前草鞋会館
- 森林組合

今年度の環境整備の取組による地域の変化や気づき

話を聞きに行く！

- ステークホルダーの数を列記するだけではダメで、どのようにアプローチするかも含めて考える必要があった。
- 「話を聞きに行く」にあたり、誰かの紹介でないと対応してくれない。このため、越前市の担当者と一緒に話を聞きに行く予定であったが、大雪のため、対応できなかった。
- このため、域内1社、域外2社しか話を聞きに行くことができなかった。特に、域内ができなかったことが残念であった。

地域のコンセプトを描く！

- 越前市の強み、弱みが把握でき、それを元にどのように展開していけばよいかが把握できた。
- ただ、マンダラ図は、文言が多くなり見やすくなる工夫をしたが、それでも見にくいとの意見もあった。

事業のストーリーを語る！

- 先端産業×伝統産業×スマート、観光・交流×スマート、農業×スマートの3つに集約できたことは成果であった。
- 1年目は何に取り組むのかの議論で終了してしまった。
- 今回の議論を深め、2年目以降は越前市らしいオリジナルの取組みにしていく必要あり。

地域の目標を立てる！

- 大きな目標や目標を多く書き過ぎても実現しないので、今できることを目標とすることが大事だと感じた。
- 今年度の目標値に対する実績値が下回ったことは課題である。

今年度の取組におけるボトルネックや新たに見えてきた課題

- 民間主導で、普段集まらないようなメンバーが集まり、議論できたことは成果であるが、議論から実践に移る難しさや、役割分担の明確化、利害関係の調整などが課題である。
- 関係者が多くなるほど、議論に時間がかかってしまう。本当に事業をしたい人を巻き込む必要があるが、利害関係を調整する必要がある。
- 研究会に環境省やEPOが毎回参加してくれ、相談できるネットワーク関係が構築できたのは非常に良かった。このネットワークを活用することが次への課題になる。

今後の展望

◆令和3年度

- 今年度できなかった域内関係者の巻き込み
- 「オープンイノベーションの拠点づくり（先端産業×伝統産業×スマート）」、「体験型観光への誘導（観光・交流×スマート）」、「スマート農業・スマート農園（農業×スマート）」の3つのワーキンググループの立上げ
- 上記の3つの取組みのブラッシュアップ
- エリアマネジメント組織準備会の立上げ